

報告事項

待機児童の現状について

1 入所待ち児童数（保留者）

（令和5年4月1日現在，単位：人）

区分	計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
阿蘇	0	0	0	0	0	0	0
村上	26	5	15	2	4	0	0
睦	5	0	3	2	0	0	0
大和田	67	9	45	7	4	1	1
高津・緑が丘	136	14	88	15	13	5	1
八千代台	51	12	24	13	1	0	0
勝田台	6	0	5	0	1	0	0
計	290	40	180	39	23	6	2

入所申請書を提出した方から，入所できた方を単純に差し引いた
いわゆる入所待ち（保留者）は“290人”でした。

高津・緑が丘地区が最多で，大和田地区，八千代台地区と続きます。
年齢別では，1歳児が多くなっています。

2 待機児童数（国基準）

（令和5年4月1日現在，単位：人）

地区	計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
阿蘇	0	0	0	0	0	0	0
村上	3	0	0	0	3	0	0
睦	0	0	0	0	0	0	0
大和田	9	0	5	0	3	0	1
高津・緑が丘	13	0	4	0	8	0	1
八千代台	19	7	2	10	0	0	0
勝田台	1	0	0	0	1	0	0
計	45	7	11	10	15	0	2

令和5年4月1日時点の国基準の待機児童数は“45人”で、
昨年同時期の119人と比較して74人減少しました。

地区別：八千代台地区が最多で、高津・緑が丘，大和田と続きます。

年齢別：3歳児，1歳児，2歳児と続きます。

3 整備目標数

入所待ち（保留者）290人から、

- ①預かり保育実施幼稚園に入園した者
- ②企業主導型保育事業所に入所した者
- ③求職中の者
- ④育児休業を継続して取得する者
- ⑤特定園のみの入所を希望した者

などを除いた **“139人”** 分を

今年度の整備目標数とします。

4 受け皿の確保に関する基本的な考え方

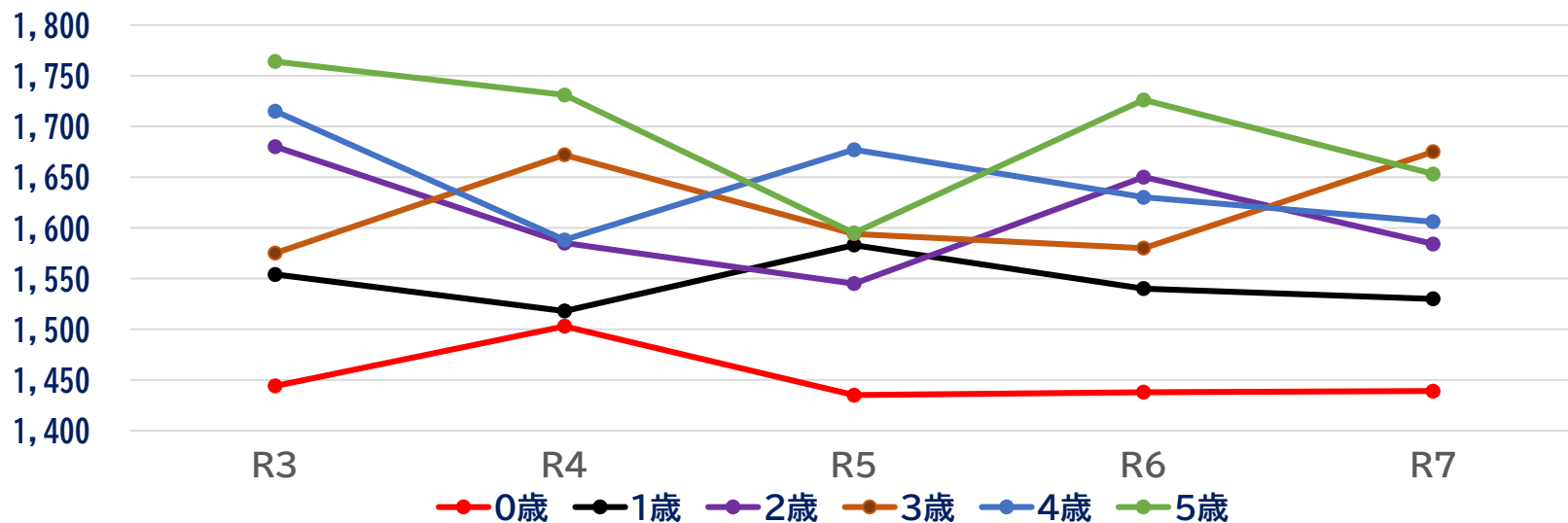
第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画 《受け皿の確保に関する方針》

- **受け皿の確保にあたっては、長期的視点に立ち、新たな施設整備は最小限に抑え、公立保育園や幼稚園の預かり保育（認定こども園含む）など既存施設を最大限に活用します。**
- **幼稚園の預かり保育等については、就労している人でも利用しやすいように、預かり時間の延長や長期休業中における預かりの拡充に向け、取り組んでいきます。**
- **睦地区の確保方策は、高津・緑が丘地区と大和田地区に隣接している地域的な特徴や教育・保育施設の利用実態を考慮し、両地区の供給量を踏まえて対応します。**

5-① 乳幼児人口の推移【市全体】

(住民基本台帳 各年4月1日現在, 単位: 人)

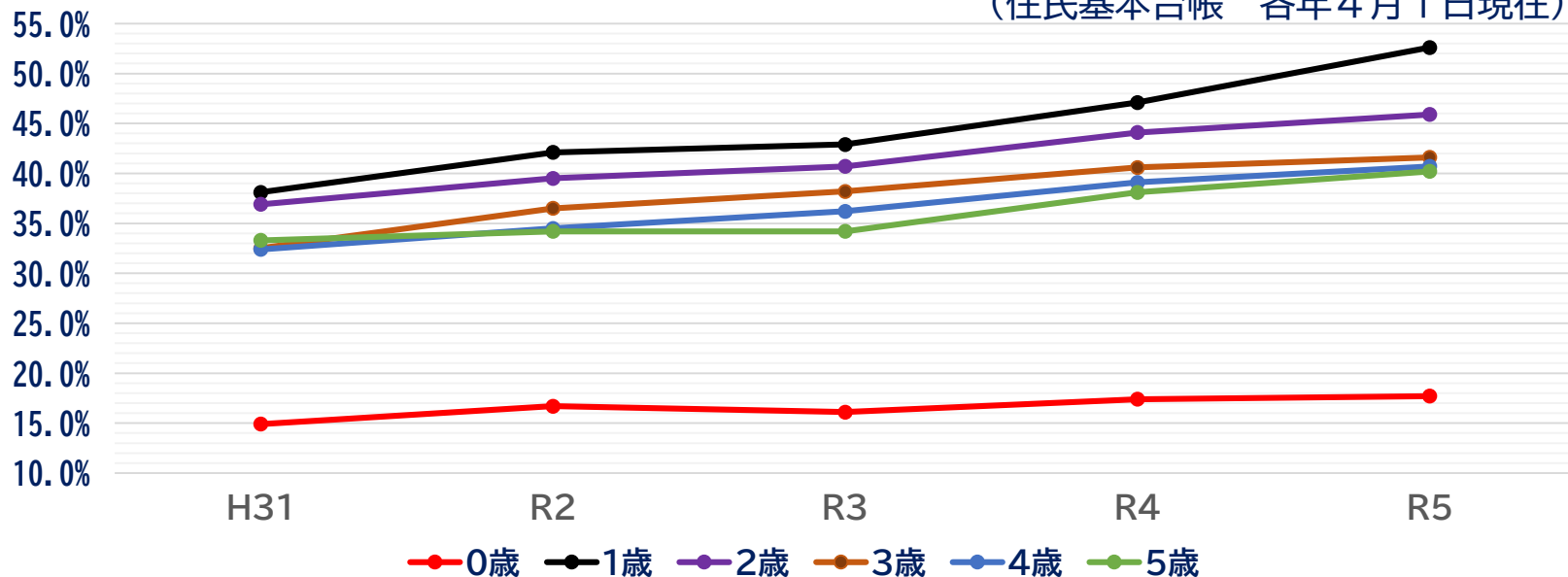
※R6以降は第2期支援事業計画改定版における推計値



区分	R3	R4	R5	R6	R7	R5-R4	R7-R3
0-5歳	9,732	9,597	9,429	9,564	9,487	△168	△245
0歳	1,444	1,503	1,435	1,438	1,439	△68	△5
1歳	1,554	1,518	1,583	1,540	1,530	65	△24
2歳	1,680	1,585	1,545	1,650	1,584	△40	△96
3歳	1,575	1,672	1,594	1,580	1,675	△78	100
4歳	1,715	1,588	1,677	1,630	1,606	89	△109
5歳	1,764	1,731	1,595	1,726	1,653	△136	△111

5-② 乳幼児人口に対する申請者数割合の推移

(住民基本台帳 各年4月1日現在)



区分	H31	R2	R3	R4	R5	R5-R4	R5-H31
0-5歳	31.5%	34.2%	35.0%	37.9%	40.1%	2.3%	8.6%
0歳	14.9%	16.7%	16.1%	17.4%	17.7%	0.3%	2.8%
1歳	38.1%	42.1%	42.9%	47.1%	52.6%	5.5%	14.6%
2歳	36.9%	39.5%	40.7%	44.1%	45.9%	1.8%	8.9%
3歳	32.5%	36.5%	38.2%	40.6%	41.6%	1.0%	9.1%
4歳	32.4%	34.5%	36.2%	39.1%	40.7%	1.6%	8.4%
5歳	33.3%	34.2%	34.2%	38.1%	40.2%	2.1%	6.9%

6-① 「0歳児」に係る待機児童対策

- 人口は、ほぼ横ばいです。
- 定員に対する申請者数は増加していますが、定員に対する申請率は83.8%で、市全体での受け皿は確保されています。
- ほとんどの企業で、産休・育休制度が整っています。

《対策》

- ①八千代台地区は、一時的な需要に対応します。
- ②その他の地区では、基本的に新たな施設整備は行いません。

6-② 「1・2歳児」に係る待機児童対策

- 人口は、ほぼ横ばいです。
- 人口に対する申請者数が大幅に増加しており、保育ニーズと受け皿の乖離が大きくなっています。
- 高津・緑が丘地区は、実質的な待機児童が多く、大和田、八千代台地区でも保育ニーズが高くなっています。

《対策》

- ①新たに小規模保育事業所の整備を行います。
- ②既存施設の定員増を伴う増築に対して支援します。

6-③ 「3歳以上児」に係る待機児童対策

- ・人口はほぼ横ばいで、人口に対する申請者数は微増となっています。
- ・小規模保育事業所の整備に伴い、保育を必要とする児童の預け先が課題です。

《対策》

- ①新規整備ではなく、幼稚園等の既存施設（幼稚園・認定こども園の1号定員）を最大限に活用します。⇒ **こども送迎センター**
- ②既存施設の定員増を伴う増築に対して支援します。

事業の内容

市が直接実施する事業として、整備・運営の委託を行う。

- ①保護者から児童を預かり、幼稚園等のバスによる送迎までの間と幼稚園等からこども送迎センターへ児童を送迎してから保護者が迎えに来るまでの間に保育を行う。
- ②幼稚園の休園日において、希望者がいた場合、終日保育を行う。